

H24. 4. 14

日本の医療システムは世界一



「医者選び」シリーズ⑦



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。53歳。ブログ (<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>) が好評。

喫茶店に入り、耳を澄まし出されると、「あちこちから聞こえてくるのは医療に関する苦情です。」「〇〇病院はけしからん」や「△△先生に怒られた」など。しかし、それほど日本の医療は質が悪いのでしょうか？患者さんが「日本の医療は悪い」と感じるのには「窓口負担が3割で高い」をはじめ「昔のようにすべし入院させてくれない」「病気が完治しなくてもすべし病院から追いつ

世界がうらやむ国民皆保険制度

日本には国民全員が保険に加入する「国民皆保険制度」があるからです。昭和35年に誕生し、昨年50年を迎えました。医療費や薬剤費は全国統一価格。保険証1枚で全国どこ

この病院にもかかれます。気に入らなければ医療機関の「浮気も可能(フリーアクセス)」です。国民医療費は年間36兆円で、いわれなくてもよく分かります。パチンコ産業が30兆円、葬祭産業が15兆円といわれるとより身近でしょう。さて、この36兆円という数字。これは会社に例えると「総売り上げ」に相当します。

天から降ってきません。結局、皆さんがお金を出し合っ成り立っているのが「国民皆保険制度」なのです。米国のオバマ大統領は日本のような国民皆保険制度の設立を掲げていましたが、いまだに実現できていません。日本の国民皆保険制度は、国際的にみれば「奇跡だ」とか「世界文化遺産だ」と、うらやまれます。しかし、肝心の日本人自身がその素晴らしさ

超高齢化社会 65歳以上の人が総人口に占める割合が21%を超えると超高齢社会と呼ぶ。昭和25年では4.9%だったが、昭和45年に7%を超え、平成22年には21%を超えた。現在、男性は5人に1人、女性は4人に1人が高齢者である。

をあまり知らないことが大変残念です。空気のような存在になり、もはやありがたみがないのでしょうか？さて、国の財政にとって医療費はどんな割合なのでしょう。GDP(国内総生産)に対する医療費の割合は、日本は8%とOECD(経済協力開発機構)30カ国中23位です。すなわち「日本国は医療にあまりお金をかけ

50年間も維持されてきた国民皆保険制度は今、本格的な超高齢化社会に突入し財政危機にひんしています。患者さんにとっては保険料や窓口負担も上がり、医療機関も診療報酬抑制政策が続きます。なんとか維持されてきた皆保険制度ですが、どうやら大きな曲がり角にきているようです。

今回の結論です。「国民皆保険制度」の意義を知っていただき、その利点を生かしながら医療費の無駄の少ない「医者選び」をしてください。

ひよこ